



子どもに関わる大人の皆さんへ

叱るときは「かしこいじかく」で！



先日、ある教育誌を読んでいたら、子ども法学者の安藤博さんの文章が目にとまりました。読み進めていくと、改めて「なるほど！」「その通り！」と思うことばかりでしたので、本校教職員に紹介した文章を一部抜粋して紹介したいと思います。教師は、ある面、生徒たちに成長させてもらっています。親も子どもに親として育てられ成長させてもらっています。しかし日々の生活の中では忘れがち…。少し視点を変えて、子育てや教育をやってみませんか？



！ 手と心

心と身体は密接です。感情は動作・行動に表れます。緊張や怒りはグーのこぶしになり、パーに開くと心は解き放たれます。これを示唆する詩があります。小学6年の男児が作ったものです（注1）。

手

手は不思議
にぎりしめれば
かたいこぶし
開けばやさしくなる
手をにぎりしめれば
心はかたくちぢこまる
手を開けば
心も開く
手は心

この詩は、怒りとその対応（アンガーマネジメント）について、私たち大人にヒントを与えてくれます。

！ 体罰に拠らない子育て

子どもの過ちに対して、親としてどのようなことに留意し、どのように適切な叱責叱正をしたらよいのでしょうか。ここでは、体罰に拠らない子どもとのかかわりを可能にする要点を5つにまとめます。

① 怒る感情について知る

怒りの感情は誰もが持っています。しかし、出し方には工夫が要ります。1つのカギは真剣さを伝えることです。それではどうすればいいのでしょうか。ロボットの開発がどんどん進んで人間に近づいても、ロボットに「ソウイウコトハイケマセン ニゲントシテユルサレナイコトデス」と叱られたとき、子どもは心からいけないことをしたと思うでしょうか。やはり生身の人間が目前にいて、残念そうなまなざしをむけ、悲しそうな表情としぐさの中から発することばに心は動かされると考えます。

② 体罰の怖さについて知る

体罰は子どもに恐怖心を与え、行動を起こさせる、あるいは起こさせないことをします。脳は体罰によって言うことを聞かせる心地よさを獲得します。これは依存の性質ですから、繰り返されてしまいます。

③ 親の学びの条件を整える

子どもが成長するには、罰を与えるより社会的に望ましい行動を育むことのほうが理にかなっています。そのためには、何が望ましい行動か、それをどう育むか、大人の学びを支える仕組みが不可欠です。しかも、参加しやすく、わかりやすく、実行しやすいプログラムと、それを実現するための専門家やボランティアが必要で

④ 共感と「伝感」を大切に

叱るときは、「してはいけない」の禁止や「すべき」の当為・命令（法的思考「リーガルマインド」）より、「そうか、そ

ういう気持ちなんだ」といった共感と「お母さん、お父さんはこういう気持ちなんだ」といった気持ちを伝える「伝感」と言おう。カウンセリングマインドのほうが相手には受け入れられやすいものです。また「あなたのことが悪い」「あなたに問題がある」といった問責・帰責（法的思考「リーガルマインド」）より、「してほしい」「してくれるとうれしい」という「伝感」と「提案」のほうが相手の心には届きます（注2）。

⑤ 正しい理屈で追い詰めない

正しい理屈で子どもを追い詰めるのも賢明なやり方とはいえません。④で述べたように、感情・気持ちを受け止めるほうが効果的です。大人だから親だから、口論に勝たなくてはならない、正しい答えを言わなくてはならないと気負えば、かえって余裕がなくなり、子どもの心が見えなくなります。大切なのは、克服の道を子どもといっしょに探すことです。そして、そのプロセスで共に学ぶことです。その懸命さが子どもの心に伝わっていきます。

！ 「かしこいじかく」

子どもは間違いをしながら適切に正されて育っていきます。ほめることだけでは育ちません。ほめることと叱ることのメリハリの中で育ちます。叱る基本姿勢は、相手の目をしっかりと見て、声は低くし、真剣さを伝えます。

叱る対象は大切なことだけに絞ります。

2019/06/17 号
週刊教育資料より
抜粋して掲載

【か】家庭のきまりを親子で「家族憲法」を作った
車窓はルールを守らない人達

【一】社会のきまり▼善悪にかかわることをしたとき。

【二】心を傷つける▼人の心を傷つけたり、名誉を侵害したとき。

【三】命にかかわる▼他者の命に危害を加えること。もちろん自分の命についても。次は叱り方のコツです。

【四】人格は叱らず、行為を叱る▼行為の背後にある感情は受け止めても、許されない行為は毅然として否定する。過ちは乗り越えられるから、その子の存在と人格は非難しない。

【か】簡潔に▼そのときその場で、手短かに本気で叱る。だらだらねねはダメ。氣迫は子どもに伝わる。

【く】クールダウンして▼かっとして怒りに身を任せるは不測の事態を招きかねないし、反感だけが残る。

叱るときは、怒りで力が入ったこぶしをパッと開きます。すると、怒りが解放されます。冒頭の詩を想い起こしてください。

思春期は、人生の中で一番心が揺れ動き、自分の存在意義を無意識に求めている時期だと思います。その現れとして反抗期があるのです。将来、社会的、家庭的に自立した大人になるための大事な反抗期です。反抗期だからといって、放任したり甘やかしたりするのはではなく、必要なときにはきちんと叱ることが大切です。また、子どもを叱るときには知恵が必要です。上記の記事が少しでもお役に立てばと思います。

🌞 熱く燃えた中体連・・・結果をお知らせします 🌞

＜佐賀市中体連＞

団体 3位 男子バスケットボール部
3位 女子バスケットボール部
3位 男子ソフトテニス部
3位 軟式野球部
3位 男子柔道部

個人 柔道部 階級別個人戦 第1位 2年 原さん
階級別個人戦 第2位 3年 平井さん
階級別個人戦 第3位 2年 山中さん
階級別個人戦 第3位 2年 平田さん
階級別個人戦 第3位 2年 村岡さん
階級別個人戦 第3位 2年 黒木さん

県大会出場 男子バスケットボール部
女子バスケットボール部(ベスト8)
男子ソフトテニス部(ベスト8)
柔道部個人戦入賞者(階級別女子3位 原さん)
陸上 100M 1年男子 松本さん→九州大会へ

夏休み中には社会体育関係でも様々な大会が開かれます。
硬式野球では、3年生の馬場さん、宮田さんの所属チームが地区大会を勝ち抜いて全国大会へ出場するそうです。これからも、様々なスポーツをはじめ文化面でも、自分の得意なことを見つけてチャレンジしてほしいと思います。